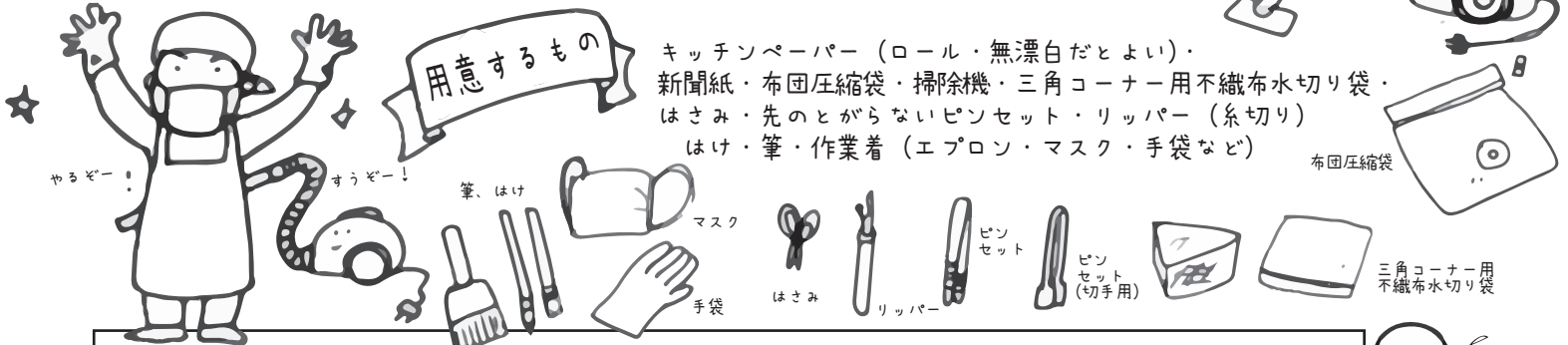
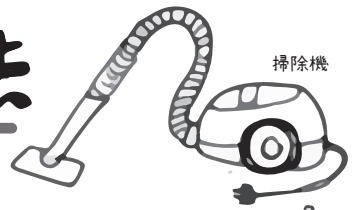


紙資料の応急処置

スクウェルチ・パッキング法



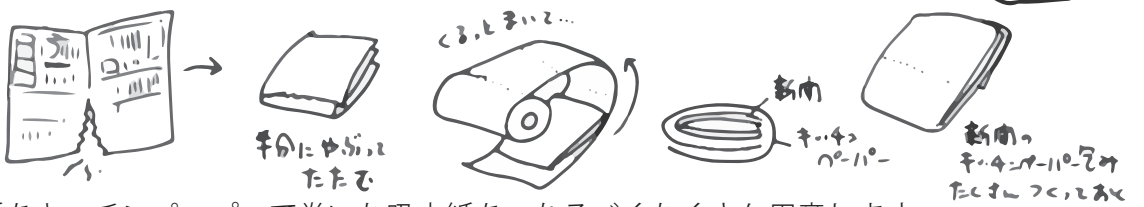
用意するもの

キッチンペーパー (ロール・無漂白だとよい)・
新聞紙・布団圧縮袋・掃除機・三角コーナー用不織布水切り袋・
はさみ・先のとがらないピンセット・リッパー (糸切り)
ほけ・筆・作業着 (エプロン・マスク・手袋など)

ぬれてしまった資料の水分を、身近な道具を使って取り除くための方法です。
子どもから大人まで、年齢や経験問わず、みんなでできるのが特徴です。
カビの発生を避けるため、作業の開始はできるだけ気温の低い時に行いましょう。

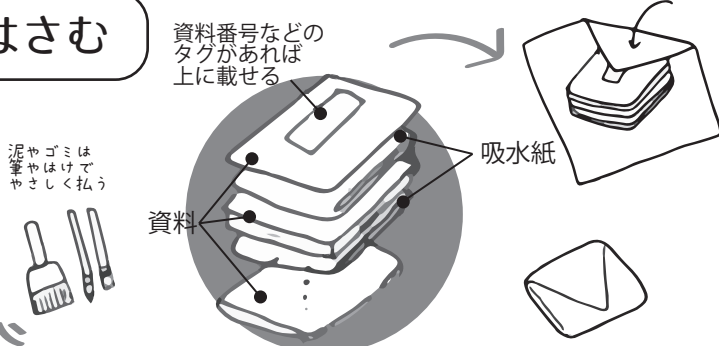


吸水紙を準備

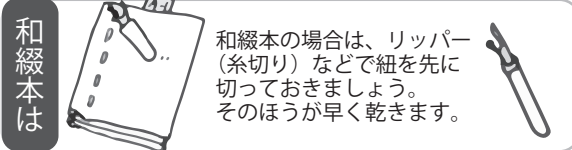
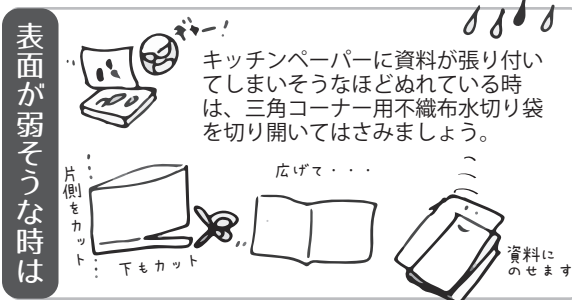


①新聞紙をキッチンペーパーで巻いた吸水紙を、なるべくたくさん用意します。

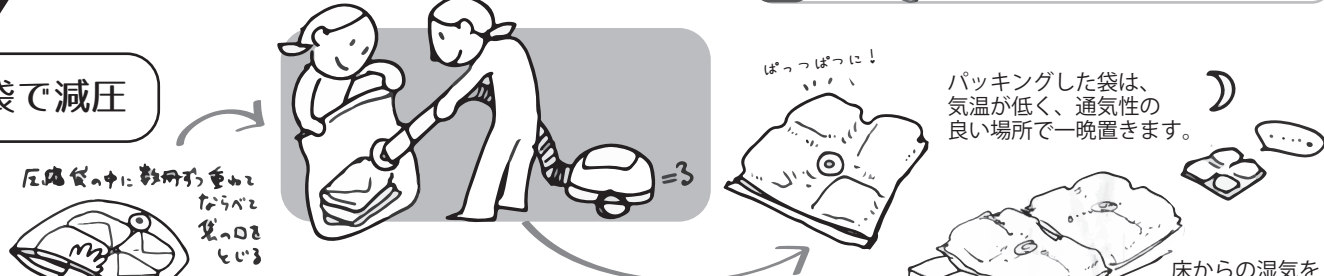
資料にはさむ



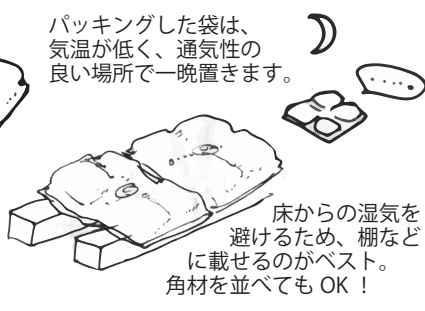
②資料と給水紙を交互に重ね、新聞紙で包みます。
たくさんはさみこむほど、早く水分が抜けます。



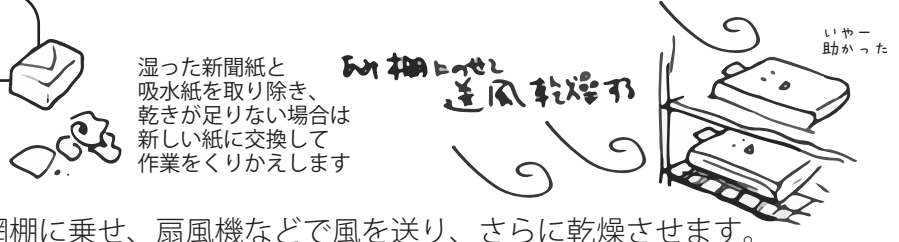
布団圧縮袋で減圧



③布団圧縮袋の中に新聞で巻いた資料を並べ、掃除機で空気を抜きます。空気を抜くことでカビの発生を抑え、自然乾燥させるよりも早く水分を抜くことができます。



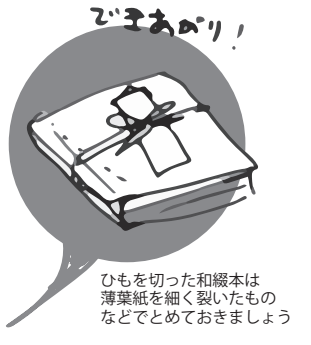
送風乾燥する



④網棚に乗せ、扇風機などで風を送り、さらに乾燥させます。

完了!

⑤作業完了の目安は紙の水分量平均7%前後。ふだん触っている本の感じです。済んだら、乾燥した場所で保管しましょう。



ひもを切った和綴本は薄葉紙を細く裂いたものなどでとめておきましょう